

的な意見は少ない。

● 考察

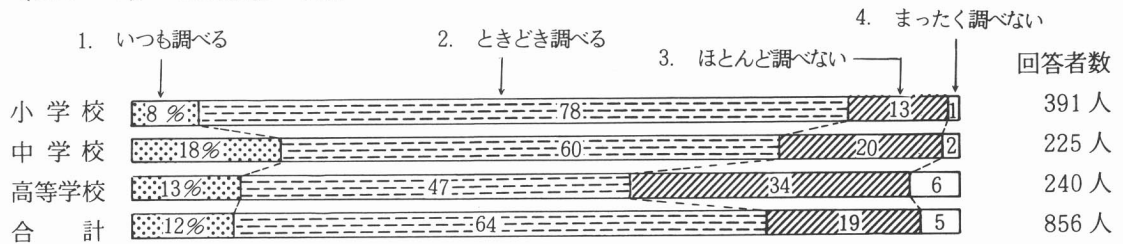
ティーム・ティーチング（交換授業や分割担当ではない）が、最近話題になっているとはいえ、実践は少ないようである。しかし、本調査では必要性を感じている回答者がかなりおり、89%が実際に導入できると考えている。このことから、回答者は、「教師が専門性を生かし、指導計画・実施・評価の全過程を複数の教師で協力して行えば、現状を改善する方法を見出し得るのではないか」と考えているものと思われる。しかし、実践への条件は厳しいようである。この指導方法を困難なものにしている原因を探り、解決する方法を研究することは、価値の高いものと思われる。

5. 児童生徒の実態把握

・ 結果と分析

(1) これから指導する単元（題材）に入る前に、児童生徒の実態を調べていますか。

<図5-1> 実態把握の状況

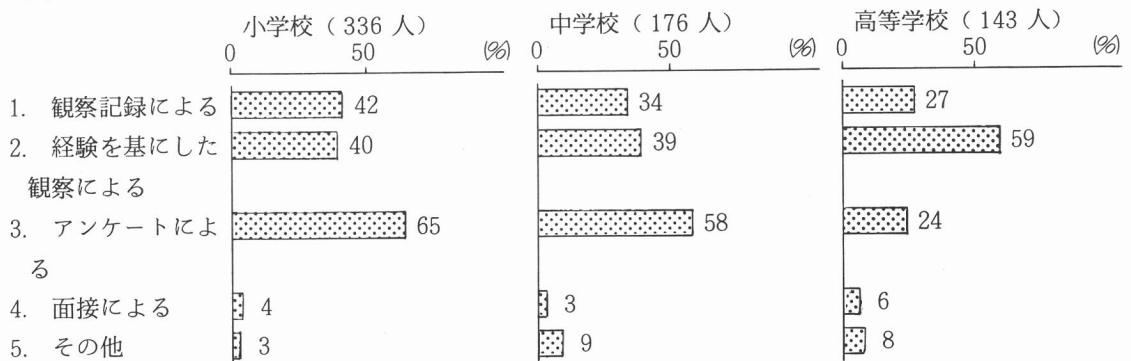


- 小・中・高等学校ともなんらかの方法で実態を把握しようとしているが、小・中・高等学校と進むにつれて調べていない回答者が多くなっている。特に、高等学校では、「ほとんど調べない」、「まったく調べない」を合わせると40%にも達している。

(2) 「いつも調べる」「ときどき調べる」と答えた方は、以下に教えてください。

① 特にどのような調べ方をしていますか。（複数回答可）

<図5-2> 実態の調べ方



- 小・中学校では主に「アンケートによる」実態把握が行われているが、高等学校では「経験を基にした観察による」が多い。小・中・高等学校とも「面接による」調べ方は極めて少ない。
- 「その他」としては、事前テスト、レディネステスト、自己評価などがあげられている。

② 特にどのような内容を調べていますか。（複数回答可）